

総務省「統一的な基準」による

# 財務書類の公表について

令和8年3月  
財政課

# 公表資料

- まえがき 1 作成についての経緯
- 2 財務書類（4表）とは

## ○財務諸表

### I 一般会計等財務書類

- 1 貸借対照表
- 2 行政コスト計算書
- 3 純資産変動計算書
- 4 資金収支計算書
- 5 注記（作成基準）
- 6 解説

### II 全体財務書類

- 1 全体貸借対照表
- 2 全体行政コスト計算書
- 3 全体純資産変動計算書
- 4 全体資金収支計算書
- 5 注記（作成基準）
- 6 解説

### III 連結財務書類

- 1 連結貸借対照表
- 2 連結行政コスト計算書
- 3 連結純資産変動計算書
- 4 注記（作成基準）
- 5 解説

※連結資金収支計算書については、今回作成義務がないため、未作成。

# ま え が き

## 1 作成についての経緯

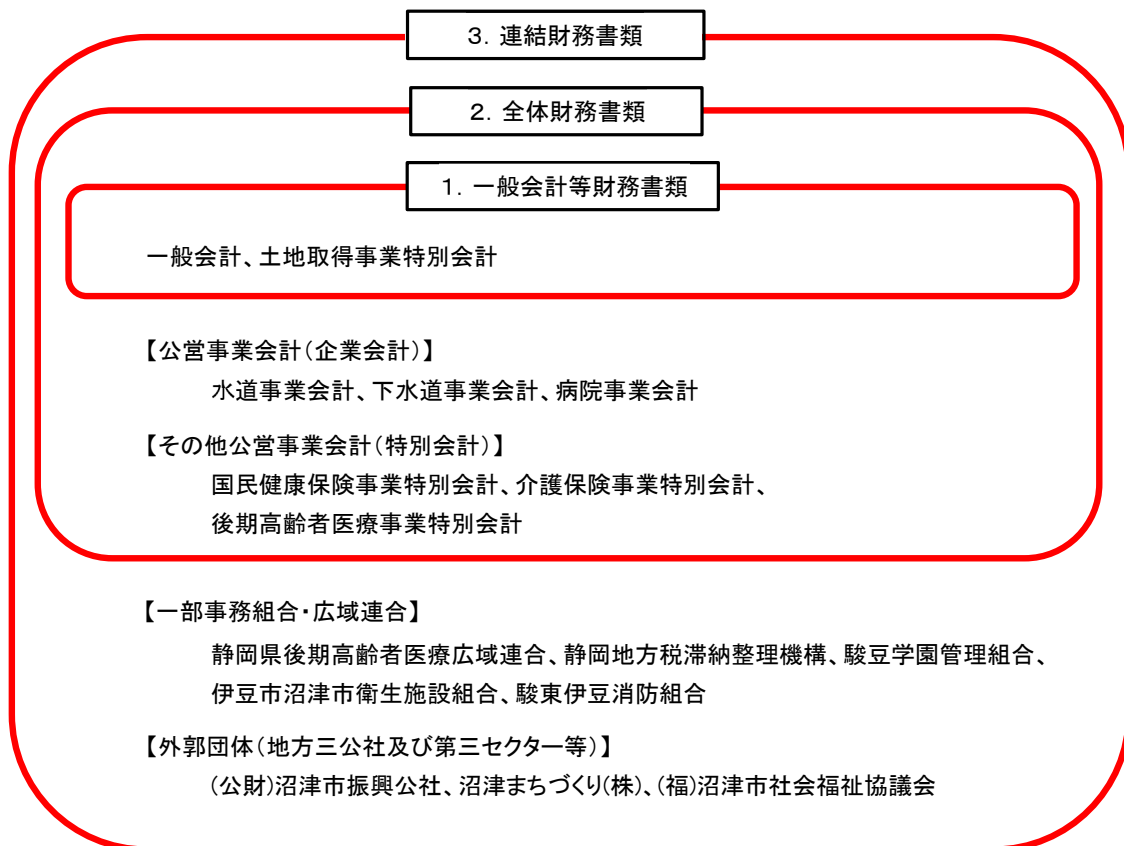
平成 18 年 6 月に成立した「行政改革推進法」を契機に、地方自治体の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度」が位置づけられ、「資産債務の実態把握及びそれらの管理体制の状況確認」と、「資産債務改革の方向性及びその具体的方策の策定」を求められました。

このことにより、多くの自治体が財務書類を作成することになりましたが、複数の方式が存在し、自治体間での比較分析はできませんでした。

そこで、平成 27 年 1 月には「統一的な基準による地方公会計の整備促進について（総務大臣通知）」が示され、平成 29 年度には「統一的な基準」による財務書類等を作成するよう要請がされました。

これを受け、本市においても平成 28 年度決算分から「統一的な基準」に基づき、作成の単位として、一般会計及び土地取得事業特別会計からなる一般会計等財務書類、一般会計等財務書類に地方公営事業会計を加えた全体財務書類、全体財務書類に関連団体を加えた連結財務書類について、それぞれ財務 4 表（「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」）を作成しております。

### <対象とする会計・団体の範囲>



## 2 財務書類（4表）とは

貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書からなる財務書類です。

貸借対照表は、本市がこれまでに蓄えた資産と、それを獲得するための財産をどのように調達したかを示すものです。財源は、これまでの世代が負担した純資産と、将来世代が負担する負債とに分かれます。負債には、これまでの財務書類に現れなかった退職手当引当金のような、潜在的な負債も計上しています。

資産 土地、建物、現金預金、債権など	負債（将来返済すべきもの） 負債、損失補償引当金、 退職手当引当金など
	純資産 （返済の必要がない市民の持分） 施設建設などに要した国県補助金・税金 等、資産評価差額など

行政コスト計算書は、行政サービスを提供するためのコストと、行政サービスの受益者が直接負担した額を示しています。これらの差し引きは、行政サービスへの直接の対価でない市税や国県補助金などで賄わなければなりません。

純資産変動計算書は、会計期間内の純資産の増減と、純資産間の異動をみることができます。純資産の増は、本市の財産持分の増を意味します。

資金収支計算書は、従来の現金ベースの自治体会計の収支を性質別に示すものです。よって、収支額は従来の自治体会計の収支額と一致します。

「業務活動収支」、「投資活動収支」及び「財務活動収支」の3つの区分に分かれています。

## 一般会計等貸借対照表

(令和7年3月31日現在)

自治体名:沼津市

会計:一般会計等

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	324,747,821	固定負債	75,449,899
有形固定資産	290,539,040	地方債	65,324,999
事業用資産	194,851,721	長期未払金	-
土地	133,458,195	退職手当引当金	8,829,091
立木竹	21,178	損失補償等引当金	-
建物	156,730,841	その他	1,295,809
建物減価償却累計額	-102,310,763	流動負債	8,516,548
工作物	38,410,847	1年内償還予定地方債	6,047,784
工作物減価償却累計額	-33,063,489	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	932,672
航空機	-	預り金	1,235,932
航空機減価償却累計額	-	その他	300,160
その他	32,688	負債合計	83,966,447
その他減価償却累計額	-11,497	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	1,583,719	固定資産等形成分	330,220,931
インフラ資産	95,117,626	余剰分(不足分)	-78,651,488
土地	43,259,508		
建物	3,895,854		
建物減価償却累計額	-2,884,691		
工作物	171,623,552		
工作物減価償却累計額	-128,882,879		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	8,106,282		
物品	3,832,044		
物品減価償却累計額	-3,262,351		
無形固定資産	66,476		
ソフトウェア	46,431		
その他	20,044		
投資その他の資産	34,142,306		
投資及び出資金	32,362,025		
有価証券	-		
出資金	1,941,460		
その他	30,420,565		
投資損失引当金	-5,423,166		
長期延滞債権	671,257		
長期貸付金	250,000		
基金	6,596,309		
減債基金	71,621		
その他	6,524,689		
その他	-		
徴収不能引当金	-314,119		
流動資産	10,788,068		
現金預金	5,019,829		
未収金	316,199		
短期貸付金	-		
基金	5,473,110		
財政調整基金	5,473,110		
減債基金	-		
棚卸資産	10,700		
その他	-		
徴収不能引当金	-31,770		
資産合計	335,535,890	純資産合計	251,569,443
		負債及び純資産合計	335,535,890

## 一般会計等行政コスト計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名: 沼津市  
会計: 一般会計等

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	80,605,856
業務費用	37,215,364
人件費	12,750,941
職員給与費	8,842,341
賞与等引当金繰入額	932,672
退職手当引当金繰入額	1,026,618
その他	1,949,311
物件費等	23,389,459
物件費	15,664,495
維持補修費	1,216,827
減価償却費	6,508,138
その他	-
その他の業務費用	1,074,963
支払利息	388,668
徴収不能引当金繰入額	345,890
その他	340,405
移転費用	43,390,492
補助金等	11,426,912
社会保障給付	20,684,357
他会計への繰出金	10,090,578
その他	1,188,645
経常収益	3,835,161
使用料及び手数料	1,100,362
その他	2,734,798
純経常行政コスト	76,770,695
臨時損失	288,587
災害復旧事業費	268,740
資産除売却損	19,847
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	103,636
資産売却益	103,636
その他	-
純行政コスト	76,955,646

## 一般会計等純資産変動計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名:沼津市  
会計:一般会計等

(単位:千円)

科目	合計		
	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	
前年度末純資産残高	248,010,680	326,219,932	-78,209,252
純行政コスト(△)	-76,955,646		-76,955,646
財源	77,894,278		77,894,278
税収等	52,127,607		52,127,607
国県等補助金	25,766,671		25,766,671
本年度差額	938,631		938,631
固定資産等の変動(内部変動)		-9,169,106	9,169,106
有形固定資産等の増加		4,055,899	-4,055,899
有形固定資産等の減少		-6,623,916	6,623,916
貸付金・基金等の増加		5,323,460	-5,323,460
貸付金・基金等の減少		-11,924,549	11,924,549
資産評価差額	268,208	268,208	
無償所管換等	2,863,816	2,863,816	
その他	-511,893	-	-511,893
本年度純資産変動額	3,558,763	-6,037,082	9,595,845
本年度末純資産残高	251,569,443	330,220,931	-78,651,488

## 一般会計等資金収支計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日自治体名: 沼津市  
会計: 一般会計等

(単位: 千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	73,260,449
業務費用支出	29,869,957
人件費支出	12,259,561
物件費等支出	16,881,322
支払利息支出	388,668
その他の支出	340,405
移転費用支出	43,390,492
補助金等支出	11,426,912
社会保障給付支出	20,684,357
他会計への繰出支出	10,090,578
その他の支出	1,188,645
業務収入	80,112,793
税収等収入	52,094,190
国県等補助金収入	24,452,898
使用料及び手数料収入	1,090,036
その他の収入	2,475,670
臨時支出	268,740
災害復旧事業費支出	268,740
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>6,583,605</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	12,999,426
公共施設等整備費支出	8,211,513
基金積立金支出	4,787,913
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	6,629,335
国県等補助金収入	1,313,773
基金取崩収入	5,065,017
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	250,545
その他の収入	-
<b>投資活動収支</b>	<b>-6,370,091</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	6,337,225
地方債償還支出	6,019,630
その他の支出	317,595
財務活動収入	6,928,100
地方債発行収入	6,928,100
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>590,875</b>
<b>本年度資金収支額</b>	<b>804,389</b>
前年度末資金残高	2,979,508
<b>本年度末資金残高</b>	<b>3,783,897</b>
前年度末歳計外現金残高	1,250,426
本年度歳計外現金増減額	-14,493
本年度末歳計外現金残高	1,235,932
本年度末現金預金残高	5,019,829

## I - 5 一般会計等財務書類に係る注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

##### イ 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

##### ② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法（定額法）

##### ① 満期保有目的以外の有価証券

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

（売却原価は移動平均法により算定）

##### イ 市場価格のないもの……………取得原価（又は償却原価法（定額法））

##### ② 出資金

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

（売却原価は移動平均法により算定）

##### イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 6 年～60 年

工作物 3 年～60 年

物品 2 年～18 年

##### ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

（ソフトウェアについては、当市における見込利用期間（5 年）に基づく定額法によっています。）

##### ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース契約 1 件あたりのリース料総

額が 300 万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去 5 年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去 5 年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去 5 年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

④ 賞与等引当金

翌年度 6 月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース料総額が 300 万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式により処理しています。

② 固定資産の計上基準

土地、建物及び立木竹以外の固定資産については、取得価額又は見積価格が 100 万円（美術品は 300 万円）以上の場合に資産として計上しています。

③ 資本的支出と修繕費の区分基準

資産性の判定が難しい支出は、金額が 100 万円未満であるとき、又は固定資産の取得価額等のおおむね 10%未満相当額以下であるときに修繕費として処理しています。

## 2 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

土地取得事業特別会計

② 地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

③ 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

④ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率 ー

連結実質赤字比率 ー

実質公債費比率 4.2%

将来負担比率 17.9%

⑤ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額 1,862,245 千円

⑥ 繰越事業に係る将来の支出予定額 7,950,401 千円

(2) 貸借対照表に係る事項

① 基金借入金（繰替運用）

歳計現金に不足が生じる場合、効率性を勘案の上、歳計現金への繰替運用を行っています。

② 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 54,264,764 千円

③ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

標準財政規模 43,013,669 千円

元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 4,395,392 千円

将来負担額 101,248,442 千円

充当可能基金額 11,099,898 千円

特定財源見込額 28,943,307 千円

地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額 54,264,764 千円

- ④ 地方自治法第 234 条の 3 に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務等金額  
1,595,969 千円

- ⑤ 建物のうち 9,829,250 千円は、PFI 事業に係る資産が計上されています。

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 業務・投資活動収支

業務活動収支（支払利息支出を除く） 6,972,273 千円

投資活動収支（基金積立支出及び基金取崩収入を除く） △6,647,195 千円

業務・投資活動収支 325,078 千円

② 既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	96,520,466 千円	92,736,569 千円
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額 ※	205,377 千円	205,377 千円
繰越金に伴う差額	△2,979,508 千円	0 千円
会計間の繰入れ・繰出しの相殺	△76,106 千円	△76,106 千円
資金収支計算書	93,670,229 千円	92,865,840 千円

※地方自治法第 233 条第 1 項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計（土地取得事業特別会計）の分だけ相違します。歳入歳出決算書では繰越金を収入として計上しますが、公会計では計上しないため、その分だけ相違します。会計間の取引の相殺を行っているため、相違します。

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支 6,583,605 千円

投資活動収入の国県等補助金収入 1,313,773 千円

未収債権、未払債務等の増減 △190,204 千円

減価償却費 △6,508,138 千円

賞与等引当金繰入額の増減 67,791 千円

退職手当引当金繰入額の増減 △423,589 千円

徴収不能引当金繰入額の増減 11,604 千円

資産除売却損益	83,789 千円
純資産変動計算書の本年度差額	938,631 千円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額	3,000,000 千円
一時借入金に係る利子額	, -千円

⑤ 重要な非資金取引

重要な非資金取引は以下のとおりです。

新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額	3,947 千円
新たに計上したPFI事業取引に係る資産及び負債の額	183,531 千円

## I - 6 令和6年度 沼津市一般会計等財務書類（解説）

### 対象会計

次の2会計を対象とします。

- 1 一般会計
- 2 土地取得事業特別会計

### 作成基準

「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」で構成し、統一的な基準に従って作成します。

### 基準日

会計期間は4月1日から3月31日、貸借対照表は3月31日現在、そのほかは会計期間内の取引を対象とします。ただし、次期4月1日から5月31日までの出納整理期間の取引も含まれます。

## 《用語説明》

### 1 貸借対照表

#### 【資産】

##### (1) 固定資産

##### ①有形固定資産

「事業用資産」「インフラ資産」「物品」に分類して表示します。

「事業用資産」とは、公共サービスに供されている資産でインフラ資産、物品以外の資産（例：学校、市営住宅）を指します。

「インフラ資産」とは、道路、河川、下水道など社会基盤となる資産を指します。

##### ②無形固定資産

ソフトウェア、地上権等の用益物権、特許権や著作権などの権利を計上します。

##### ③投資その他の資産

##### 投資損失引当金

関係団体の純資産（資本）に投資等割合を乗じた額が投資等額の7割を下回った場合、その差額を計上します。

##### 長期延滞債権

調定から1年以上回収できない債権額を計上します。

#### 徴収不能引当金

貸付金及び長期延滞債権のうち、回収不能となることが見込まれる金額を計上します。過去5年間の平均不納欠損率又は個別に回収可能性を検討し、見込額を計上します。

#### (2) 流動資産

##### ①未収金

調定から1年未満の債権額を計上します。

##### ②徴収不能引当金

未収金のうち回収不能見込額を、過去5年間の平均不納欠損率又は個別に回収可能性を検討し、計上します。

### 【負債】

#### (1) 固定負債

##### ①地方債

地方債残高のうち、償還まで1年を超えるものを計上します。

##### ②退職手当引当金

職員に対して将来支払う退職金を見積もって引当金計上します。

##### ③その他

PFIにより取得する資産の対価として確定している債務のうち、支払まで1年を超えるものなどを計上します。

#### (2) 流動負債

##### ①1年内償還予定地方債

翌年度償還予定の地方債を計上します。

##### ②賞与等引当金

職員への翌期に支払う賞与の支払いに備え、当期分を見積もり、計上する引当金です。

##### ③預り金

職員などから一時的に預かった金銭で、給料などから天引きした税金や社会保険料が代表的なものです。

### 【純資産】

#### (1) 固定資産等形成分

将来の住民へ持ち越す財産のうち、固定資産の形で持つものであり、固定資産、基金の残高などです。

#### (2) 余剰分（不足分）

将来の住民へ持ち越す財産のうち、お金の形で持ち越すものです。この金額がマイナスの場合は、負担を持ち越すことを表しています。

## **2 行政コスト計算書**

資産の形成を伴わない支出を費用とし、行政サービスに対する直接の対価を収益として、市税などでまかなわなければならない行政コストを計算します。

### **【経常費用】**

#### (1) 人件費

職員給与や議員報酬、退職手当引当金繰入額などを計上します。

#### (2) 物件費等

##### ① 物件費

電気料や事務用品など、消費的な経費を計上します。

##### ② 維持補修費

道路や建物の修繕など、資産形成にあたらぬ軽微な維持補修費を計上します。

##### ③ 減価償却費

有形固定資産のうち、使用や時間の経過により今期減じた価値を計上します。

#### (3) その他の業務費用

支払利息や損害保険料などを計上します。

#### (4) 移転費用

##### ① 補助金等

他の地方公共団体や民間に対する補助金、負担金などを計上します。

##### ② 社会保障給付

社会保障給付として扶助費を計上します。

##### ③ 他会計への繰出金

他会計への繰出金を計上します。

### **【経常収益】**

行政サービスに対する直接の対価である使用料・手数料と、財産貸付収入、雑入などを計上します。

### **【臨時損失】**

災害復旧に要する経費、資産の除却や売却などにより生じた損失などを計上します。

### **【臨時利益】**

資産の売却により生じた利益などを計上します。

## **3 純資産変動計算書**

今期中の純資産の変動を表します。

### **【純行政コスト】**

行政コスト計算書の純行政コストを転記します。

### **【税込等】**

市税・地方交付税・分担金・負担金などを計上します。

#### 【国県等補助金】

行政コストに充当した国県等補助金を計上します。

#### 【資産評価差額】

有価証券などの資産の評価差額を計上します。

#### 【無償所管換等】

無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額などを計上します。

### 4 資金収支計算書

今期中の現金収支を、3部門に分けて表します。

#### (1) 業務活動収支

行政コスト計算書の経常行政コストに計上される支出と、これに充当する財源との収支を表します。ただし、行政コスト計算書では発生主義の考え方を取り入れているため、行政コスト計算書の経常行政コストとは一致しません。

#### (2) 投資活動収支

公共施設等整備費、基金への積立額と、これに直接充当する財源との収支を表します。

#### (3) 財務活動収支

地方債の償還と、地方債の借入との収支を表します。

## 《分 析》

### 1 貸借対照表

#### 【資産】

資産の総額は3,355億3,589万円で、内訳は固定資産3,247億4,782万1千円、流動資産107億8,806万8千円です。

#### (1) 固定資産

##### ① 有形固定資産

計上額は2,905億3,904万円で、うち事業用資産1,948億5,172万1千円(67.1%)、インフラ資産951億1,762万6千円(32.7%)、物品5億6,969万3千円(0.2%)となっています。

##### ② 無形固定資産

計上額は6,647万6千円で、ソフトウェア4,643万1千円が主なものです。

##### ③ 投資その他の資産

計上額は341億4,230万6千円で、公営企業への出資金304億2,056万5千円が

主なものです。

(2) 流動資産

① 現金預金

計上額は50億1,982万9千円で、歳入歳出差引額の37億8,389万7千円と歳計外現金12億3,593万2千円を計上しています。

② 基金

計上額は54億7,311万円で、すべて財政調整基金です。

【負債】

負債の総額は839億6,644万7千円で、内訳は固定負債754億4,989万9千円、流動負債85億1,654万8千円です。

(1) 固定負債

① 地方債

計上額は653億2,499万9千円で、翌年度償還予定地方債を除く地方債残高です。

② 退職手当引当金

計上額は88億2,909万1千円です。

(2) 流動負債

① 1年内償還予定地方債

計上額は60億4,778万4千円で、翌年度償還予定の地方債を計上しています。

② 賞与等引当金

計上額は9億3,267万2千円です。

③ 預り金

計上額は12億3,593万2千円で、歳計外現金を計上しています。

【純資産】

純資産の総額は2,515億6,944万3千円で、内訳は固定資産等形成分3,302億2,093万1千円、不足分786億5,148万8千円です。

**2 行政コスト計算書**

経常費用は806億585万6千円で、経常収益は38億3,516万1千円、差引純経常行政コストは767億7,069万5千円です。

【経常費用】

性質別費用の状況

減価償却費及び維持補修費を含めた物件費等233億8,945万9千円(29.0%)が最も多く、次いで社会保障給付が206億8,435万7千円(25.7%)、退職手当引当金繰入額、

賞与等引当金繰入額等を含めた人件費が127億5,094万1千円（15.8%）となっています。

#### 【経常収益】

計上額は38億3,516万1千円で、使用料や手数料、財産貸付収入、雑入などを計上しています。

なお、臨時損失は災害復旧事業費や資産の除売却に伴う損失2億8,858万7千円、臨時利益は資産の売却に伴う利益1億363万6千円で、純行政コストは769億5,564万6千円です。

### **3 純資産変動計算書**

#### (1) 純行政コストと財源

純行政コストには、税金等と国県等補助金を充当します。純行政コストは769億5,564万6千円、充当する税金等は521億2,760万7千円、国県等補助金は257億6,667万1千円、合わせて778億9,427万8千円なので、差引9億3,863万1千円の余剰が生じました。

#### (2) 資産評価替えによる変動額

変動額は2億6,820万8千円で、有価証券の評価差益などによるものです。

### **4 資金収支計算書**

今期の支出額は928億6,584万円、収入額は936億7,022万9千円、差引した本年度資金収支額は8億438万9千円となり、前年度末資金残高を加えた本年度末資金残高は37億8,389万7千円となりました。

また、本年度末歳計外現金残高を加えた現金預金残高は50億1,982万9千円となりました。

#### (1) 業務活動収支

業務支出は732億6,044万9千円、業務収入は801億1,279万3千円、差引して65億8,360万5千円の余剰が生じました。

#### (2) 投資活動収支

投資活動支出は129億9,942万6千円、投資活動収入は66億2,933万5千円、差引して63億7,009万1千円の不足が生じました。

#### (3) 財務活動収支

財務活動支出は63億3,722万5千円、財務活動収入は69億2,810万円、差引して5億9,087万5千円の余剰が生じました。

## 全体貸借対照表

(令和7年3月31日現在)

自治体名:沼津市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	416,600,753	固定負債	151,443,102
有形固定資産	401,707,967	地方債等	112,515,990
事業用資産	201,151,467	長期未払金	-
土地	136,114,868	退職手当引当金	11,133,700
立木竹	21,178	損失補償等引当金	-
建物	168,851,956	その他	27,793,412
建物減価償却累計額	-110,989,218	流動負債	14,664,718
工作物	39,227,104	1年内償還予定地方債等	9,882,043
工作物減価償却累計額	-33,688,160	未払金	1,649,980
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	1,342,682
航空機	-	預り金	1,237,901
航空機減価償却累計額	-	その他	552,113
その他	45,446	負債合計	166,107,820
その他減価償却累計額	-15,426	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	1,583,719	固定資産等形成分	422,073,862
インフラ資産	192,115,469	余剰分(不足分)	-153,689,842
土地	48,534,861	他団体出資等分	-
建物	10,008,903		
建物減価償却累計額	-5,802,355		
工作物	315,400,161		
工作物減価償却累計額	-185,708,931		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	9,682,830		
物品	31,793,907		
物品減価償却累計額	-23,352,876		
無形固定資産	2,122,254		
ソフトウェア	50,446		
その他	2,071,807		
投資その他の資産	12,770,531		
投資及び出資金	1,941,460		
有価証券	-		
出資金	1,941,460		
その他	-		
長期延滞債権	1,184,460		
長期貸付金	38,900		
基金	10,032,784		
減債基金	71,621		
その他	9,961,164		
その他	-		
徴収不能引当金	-427,073		
流動資産	17,891,088		
現金預金	9,868,743		
未収金	2,559,132		
短期貸付金	-		
基金	5,473,110		
財政調整基金	5,473,110		
減債基金	-		
棚卸資産	109,181		
その他	21,975		
徴収不能引当金	-141,052		
繰延資産	-	純資産合計	268,384,020
資産合計	434,491,841	負債及び純資産合計	434,491,841

## 全体行政コスト計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名: 沼津市

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	130,544,324
業務費用	57,752,560
人件費	20,184,090
職員給与費	14,843,545
賞与等引当金繰入額	1,342,682
退職手当引当金繰入額	1,255,977
その他	2,741,886
物件費等	34,602,797
物件費	22,307,984
維持補修費	1,374,663
減価償却費	10,920,150
その他	-
その他の業務費用	2,965,672
支払利息	1,043,010
徴収不能引当金繰入額	530,551
その他	1,392,111
移転費用	72,791,765
補助金等	50,916,499
社会保障給付	20,686,113
その他	1,189,093
経常収益	17,463,811
使用料及び手数料	14,066,737
その他	3,397,074
純経常行政コスト	113,080,514
臨時損失	288,587
災害復旧事業費	268,740
資産除売却損	19,847
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	103,636
資産売却益	103,636
その他	-
純行政コスト	113,265,465

## 全体純資産変動計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名:沼津市

会計:全体会計

(単位:千円)

科目	合計			
	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分	
前年度末純資産残高	264,756,363	418,767,084	-154,010,721	-
純行政コスト(△)	-113,265,465		-113,265,465	-
財源	114,060,595		114,060,595	-
税収等	68,127,871		68,127,871	-
国県等補助金	45,932,724		45,932,724	-
本年度差額	795,130		795,130	-
固定資産等の変動(内部変動)		-9,875,722	9,875,722	
有形固定資産等の増加		8,383,377	-8,383,377	
有形固定資産等の減少		-11,098,518	11,098,518	
貸付金・基金等の増加		6,024,788	-6,024,788	
貸付金・基金等の減少		-13,185,368	13,185,368	
資産評価差額	268,208	268,208		
無償所管換等	2,876,212	2,876,212		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-	-
その他	-311,893	-	-311,893	-
本年度純資産変動額	3,627,657	-6,731,303	10,358,960	-
本年度末純資産残高	268,384,020	422,073,862	-153,689,842	-

## 全体資金収支計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名: 沼津市

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	118,019,070
業務費用支出	45,227,305
人件費支出	19,635,569
物件費等支出	23,271,224
支払利息支出	1,043,010
その他の支出	1,277,503
移転費用支出	72,791,765
補助金等支出	50,916,499
社会保障給付支出	20,686,113
その他の支出	1,189,093
業務収入	128,743,957
税収等収入	66,949,770
国県等補助金収入	44,589,234
使用料及び手数料収入	14,118,422
その他の収入	3,086,531
臨時支出	268,740
災害復旧事業費支出	268,740
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	10,456,148
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	18,020,830
公共施設等整備費支出	12,969,313
基金積立金支出	5,042,777
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	8,740
その他の支出	-
投資活動収入	7,831,193
国県等補助金収入	1,875,227
基金取崩収入	5,561,652
貸付金元金回収収入	3,720
資産売却収入	250,545
その他の収入	140,048
投資活動収支	-10,189,637
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	10,325,078
地方債等償還支出	10,004,897
その他の支出	320,181
財務活動収入	10,730,048
地方債等発行収入	10,530,048
その他の収入	200,000
財務活動収支	404,970
本年度資金収支額	671,481
前年度末資金残高	7,961,331
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	8,632,811
前年度末歳計外現金残高	1,250,426
本年度歳計外現金増減額	-14,493
本年度末歳計外現金残高	1,235,932
本年度末現金預金残高	9,868,743

## Ⅱ－５ 全体財務書類に係る注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額 1 円としています。

##### イ 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

##### ② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 満期保有目的有価証券……………償却原価法（定額法）

##### ② 満期保有目的以外の有価証券

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

（売却原価は移動平均法により算定）

##### イ 市場価格のないもの……………取得原価（又は償却原価法（定額法））

##### ③ 出資金

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

（売却原価は移動平均法により算定）

##### イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

##### ① 貯蔵品……………先入先出法による原価法による。

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 6 年～60 年

工作物 3 年～60 年

物品 2年～18年

- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法  
（ソフトウェアについては、当市における見込利用期間（5年）に基づく定額法によっています。）
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）  
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率（又は個別に回収可能性を検討し）により、徴収不能見込額を計上しています。ただし、一部の連結対象団体においては、法人税法に規定する法定繰入率に基づく繰入限度額によっています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

② 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

③ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当、勤勉手当等及びそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 全体資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

## 2 追加情報

### (1) 連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業	地方公営事業会計	全部連結	—
介護保険事業	地方公営事業会計	全部連結	—
後期高齢者医療事業	地方公営事業会計	全部連結	—
病院事業	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業	地方公営企業会計	全部連結	—
下水道事業	地方公営企業会計	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

①地方公営事業会計及び地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

### (2) 出納整理期間

地方自治法第 235 条の 5 に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

### (3) 表示単位未満の取扱い

各項目の金額を表示単位未満で四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

## Ⅱ－6 令和6年度 沼津市全体財務書類（解説）

### 対象会計

次の会計を対象とします。

一般会計

特別会計

国民健康保険事業特別会計 土地取得事業特別会計 介護保険事業特別会計

後期高齢者医療事業特別会計

公営企業会計

病院事業会計 水道事業会計 下水道事業会計

### 作成基準

「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」で構成し、統一的な基準に従って作成します。

### 基準日

会計期間は4月1日から3月31日、貸借対照表は3月31日現在、そのほかは会計期間内の取引を対象とします。ただし、次期4月1日から5月31日までの出納整理期間の取引も含まれます。

### 連結の方法

対象会計の財務諸表を単純合計し、取引・財務関係の主要なものを相殺します。

【相殺対象】投資と資本、債権債務、補助金の支払いと受取り、繰出金など

## 《分 析》

### 1 全体貸借対照表

#### 【資 産】

資産の総額は4,344億9,184万1千円で、内訳は固定資産4,166億75万3千円、流動資産178億9,108万8千円です。

#### (1) 固定資産

##### ①有形固定資産

計上額は4,017億796万7千円で、うち事業用資産2,011億5,146万7千円(50.1%)、インフラ資産1,921億1,546万9千円(47.8%)、物品84億4,103万1千円(2.1%)となっています。

②無形固定資産

計上額は21億2,225万4千円で、下水道事業会計における施設利用権18億6,756万8千円が主なものです。

③投資その他の資産

計上額は127億7,053万1千円で、投資及び出資金19億4,146万円、長期延滞債権11億8,446万円、基金100億3,278万4千円、徴収不能引当金4億2,707万3千円などです。

(2)流動資産

①現金預金

計上額は98億6,874万3千円です。

②未収金

計上額は25億5,913万2千円です。

③基金

計上額は54億7,311万円で、すべて財政調整基金です。

④棚卸資産

計上額は1億918万1千円です。

⑤徴収不能引当金

計上額は1億4,105万2千円です。

【負債】

負債の総額は1,661億782万円で、内訳は固定負債1,514億4,310万2千円、流動負債146億6,471万8千円です。

(1)固定負債

①地方債等

計上額は1,125億1,599万円で、翌年度償還予定地方債を除く地方債残高です。

②退職手当引当金

計上額は111億3,370万円です。

(2)流動負債

①1年内償還予定地方債等

計上額は98億8,204万3千円で、翌年度償還予定の地方債を計上しています。

②未払金

計上額は16億4,998万円です。

③預り金

計上額は12億3,790万1千円です。

【純資産】

純資産合計は2,683億8,402万円です。内訳は固定資産等形成分4,220億7,386万2

千円、不足分 1,536 億 8,984 万 2 千円です。

## **2 全体行政コスト計算書**

経常費用は 1,305 億 4,432 万 4 千円、経常収益は 174 億 6,381 万 1 千円、差引き純経常行政コストは 1,130 億 8,051 万 4 千円です。

### **【経常費用】**

性質別費用の状況

補助金等 509 億 1,649 万 9 千円 (39.0%) が最も多く、次いで物件費等が 346 億 279 万 7 千円 (26.5%)、社会保障給付が 206 億 8,611 万 3 千円 (15.8%) となっています。

### **【経常収益】**

計上額は 174 億 6,381 万 1 千円です。病院事業会計における入院・外来収益、水道料金、下水道使用料金が主なものです。

なお、臨時損失は災害復旧事業費や資産の除売却に伴う損失 2 億 8,858 万 7 千円、臨時利益は資産の売却に伴う利益 1 億 363 万 6 千円で、純行政コストは、1,132 億 6,546 万 5 千円です。

## **3 全体純資産変動計算書**

本年度末純資産残高の総額は 2,647 億 5,636 万 3 千円です。

純行政コストには、税金等と国県等補助金を充当します。純行政コストは 1,132 億 6,546 万 5 千円、充当する財源は税金等 681 億 2,787 万 1 千円、国県等補助金 459 億 3,272 万 4 千円、合わせて 1,140 億 6,059 万 5 千円なので、差引 7 億 9,513 万円の余剰が生じています。

## **4 全体資金収支計算書**

前年度末資金残高 79 億 6,133 万 1 千円、本年度末資金残高 86 億 3,281 万 1 千円、差し引き 6 億 7,148 万 1 千円の資金増で、多くは一般会計の歳入歳出決算収支の増によるものです。

## 連結貸借対照表

(令和7年3月31日現在)

自治体名:沼津市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	419,425,501	固定負債	153,258,095
有形固定資産	404,245,013	地方債等	113,343,960
事業用資産	203,359,645	長期未払金	-
土地	136,730,708	退職手当引当金	12,046,982
立木竹	21,178	損失補償等引当金	-
建物	172,705,080	その他	27,867,153
建物減価償却累計額	-113,346,671	流動負債	15,237,980
工作物	39,371,304	1年内償還予定地方債等	10,017,421
工作物減価償却累計額	-33,796,783	未払金	1,770,905
船舶	-	未払費用	9,566
船舶減価償却累計額	-	前受金	7,086
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	1,533,389
航空機	-	預り金	1,316,368
航空機減価償却累計額	-	その他	583,246
その他	115,388	負債合計	168,496,075
その他減価償却累計額	-24,279	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	1,583,719	固定資産等形成分	424,918,639
インフラ資産	192,145,472	余剰分(不足分)	-155,129,747
土地	48,534,861	他団体出資等分	835,331
建物	10,008,903		
建物減価償却累計額	-5,802,355		
工作物	315,400,161		
工作物減価償却累計額	-185,708,931		
その他	38,028		
その他減価償却累計額	-8,025		
建設仮勘定	9,682,830		
物品	33,787,141		
物品減価償却累計額	-25,047,244		
無形固定資産	2,131,945		
ソフトウェア	55,565		
その他	2,076,380		
投資その他の資産	13,048,542		
投資及び出資金	685,600		
有価証券	-		
出資金	653,600		
その他	32,000		
長期延滞債権	1,184,460		
長期貸付金	39,578		
基金	10,583,212		
減債基金	71,621		
その他	10,511,592		
その他	982,765		
徴収不能引当金	-427,073		
流動資産	19,694,798		
現金預金	11,474,865		
未収金	2,730,876		
短期貸付金	-		
基金	5,493,138		
財政調整基金	5,493,138		
減債基金	-		
棚卸資産	109,468		
その他	27,728		
徴収不能引当金	-141,277		
繰延資産	-	純資産合計	270,624,224
資産合計	439,120,299	負債及び純資産合計	439,120,299

# 連結行政コスト計算書

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

自治体名: 沼津市

会計: 連結会計

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	153,408,364
業務費用	61,649,185
人件費	22,832,147
職員給与費	17,124,914
賞与等引当金繰入額	1,533,389
退職手当引当金繰入額	1,343,463
その他	2,830,381
物件費等	35,696,664
物件費	22,638,484
維持補修費	1,437,331
減価償却費	11,145,510
その他	475,339
その他の業務費用	3,120,374
支払利息	1,045,003
徴収不能引当金繰入額	530,777
その他	1,544,594
移転費用	91,759,179
補助金等	42,705,861
社会保障給付	47,843,221
その他	1,210,037
経常収益	18,267,496
使用料及び手数料	14,068,938
その他	4,198,557
純経常行政コスト	135,140,868
臨時損失	290,164
災害復旧事業費	268,740
資産除売却損	19,927
損失補償等引当金繰入額	-
その他	1,497
臨時利益	104,354
資産売却益	104,320
その他	34
純行政コスト	135,326,678

## 連結純資産変動計算書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

自治体名:沼津市

会計:連結会計

(単位:千円)

科目	合計			
	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分	
前年度末純資産残高	267,004,312	421,606,689	-155,447,519	845,142
純行政コスト(△)	-135,326,678		-135,317,709	-8,968
財源	136,138,822		136,138,822	-
税収等	79,051,300		79,051,300	-
国県等補助金	57,087,523		57,087,523	-
本年度差額	812,145		821,113	-8,968
固定資産等の変動(内部変動)		-9,916,884	9,916,884	
有形固定資産等の増加		8,589,388	-8,589,388	
有形固定資産等の減少		-11,323,958	11,323,958	
貸付金・基金等の増加		6,141,098	-6,141,098	
貸付金・基金等の減少		-13,323,412	13,323,412	
資産評価差額	268,208	268,208		
無償所管換等	2,876,212	2,876,212		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-843			-843
比例連結割合変更に伴う差額	-24,489	46,334	-70,823	-
その他	-311,321	-	-311,321	
本年度純資産変動額	3,619,911	-6,726,131	10,355,853	-9,811
本年度末純資産残高	270,624,224	424,918,639	-155,129,747	835,331

## Ⅲ－４ 連結財務書類に係る注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価  
ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額 1 円としています。
  - イ 昭和 60 年度以後に取得したもの  
取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価  
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - 取得原価が判明しているもの……………取得原価
  - 取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的以外の有価証券
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………取得原価 (又は償却原価法 (定額法))
- ② 出資金
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 貯蔵品……………先入先出法による原価法による。

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産 (リース資産を除きます。) ……定額法  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	6 年～60 年
工作物	3 年～60 年
物品	2 年～18 年

ただし、一部の連結対象団体については定率法によっています。

- ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法  
（ソフトウェアについては、当市における見込利用期間（5年）に基づく定額法によっています。）
- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）  
……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

② 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

ただし、一部の連結対象団体においては、主として期末における退職給付債務及び年金資産の見込み額に基づき計上しています。

③ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当、勤勉手当等及びそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

2 追加情報

(1) 連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業	地方公営事業会計	全部連結	—
介護保険事業	地方公営事業会計	全部連結	—
後期高齢者医療事業	地方公営事業会計	全部連結	—
病院事業	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業	地方公営企業会計	全部連結	—
下水道事業	地方公営企業会計	全部連結	—
静岡地方税滞納整理機構	一部事務組合・広域連合	比例連結	4.76%
静岡県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	5.53%
伊豆市沼津市衛生施設組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	41.79%
駿東伊豆消防組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	40.13%
駿豆学園管理組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	1.55%
沼津市振興公社	第三セクター等	全部連結	—
沼津まちづくり株式会社	第三セクター等	全部連結	—
沼津市社会福祉協議会	第三セクター等	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

- ① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。
- ② 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象となります。
- ③ 第三セクター等は、出資割合等が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。

## (2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき、出納整理期間を設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

## (3) 表示単位未満の取扱い

各項目の金額を表示単位未満で四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

## Ⅲ－５ 令和６年度 沼津市連結財務書類（解説）

### 対象会計

次の会計、団体を対象とします。

#### 会計

一般会計

特別会計

国民健康保険事業特別会計 土地取得事業特別会計 介護保険事業特別会計

後期高齢者医療事業特別会計

公営企業会計

病院事業会計 水道事業会計 下水道事業会計

#### 団体

一部事務組合・広域連合

伊豆市沼津市衛生施設組合 駿豆学園管理組合

静岡県後期高齢者医療広域連合 静岡地方税滞納整理機構

駿東伊豆消防組合

第三セクター等

公益財団法人沼津市振興公社 沼津まちづくり株式会社

社会福祉法人沼津市社会福祉協議会

### 作成基準

「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」で構成し、統一的な基準に従って作成します。ただし、資金収支計算書については、連結対象団体のうち公益財団法人や株式会社などの第三セクター等において、会社法などの規定により、キャッシュ・フロー計算書の作成義務がない法人があることから、総務省の作成基準において作成が義務付けされていません。本市についても、該当法人として、沼津市振興公社及び沼津まちづくり株式会社があるため、今回の報告において「資金収支計算書」は作成していません。

### 基準日

貸借対照表は3月31日現在、そのほかは4月1日から3月31日までの取引を対象とします。ただし、出納整理期間の出納については、基準日までに終了したものとして処理します。

### 連結の方法

対象会計の財務諸表を単純合計し、取引・財務関係の主要なものを相殺します。

【相殺対象】投資と資本、債権債務、補助金の支払いと受取り、繰出金など

## 《分 析》

### 1 連結貸借対照表

#### 【資 産】

資産合計は4,391億2,029万9千円です。内訳は固定資産4,194億2,550万1千円、流動資産196億9,479万8千円です。

#### (1) 固定資産

##### ①有形固定資産

計上額は4,042億4,501万3千円で、うち事業用資産2,033億5,964万5千円(50.3%)、インフラ資産1,921億4,547万2千円(47.5%)、物品87億3,989万7千円(2.2%)となっています。

##### ②無形固定資産

計上額は21億3,194万5千円で、下水道事業会計における施設利用権18億6,756万8千円が主なものです。

##### ③投資その他の資産

計上額は130億4,854万2千円で、投資及び出資金6億8,560万円、長期延滞債権11億8,446万円、基金105億8,321万2千円、徴収不能引当金4億2,707万3千円などです。

#### (2) 流動資産

##### ①現金預金

計上額は114億7,486万5千円です。

##### ②未収金

計上額は27億3,087万6千円です。

##### ③基金

計上額は54億9,313万8千円で、すべて財政調整基金です。

##### ④棚卸資産

計上額は1億946万8千円です。

##### ⑤徴収不能引当金

計上額は1億4,127万7千円です。

#### 【負 債】

負債合計は1,684億9,607万5千円で、固定負債1,532億5,809万5千円、流動負債152億3,798万円です。

(1) 固定負債

① 地方債等

計上額は 1,133 億 4,396 万円です。

② 退職手当引当金

計上額は 120 億 4,698 万 2 千円です。

(2) 流動負債

① 1 年内償還予定地方債等

計上額は 100 億 1,742 万 1 千円です。

② 未払金

計上額は 17 億 7,090 万 5 千円です。

③ 賞与等引当金

計上額は 15 億 3,338 万 9 千円です。

④ 預り金

計上額は 13 億 1,636 万 8 千円です。

【純資産】

純資産合計は 2,706 億 2,422 万 4 千円です。固定資産等形成分 4,249 億 1,863 万 9 千円、不足分 1,551 億 2,974 万 7 千円、他団体出資等分 8 億 3,533 万 1 千円です。

## **2 連結行政コスト計算書**

経常費用は 1,534 億 836 万 4 千円、経常収益は 182 億 6,749 万 6 千円、差引き純経常行政コストは 1,351 億 4,086 万 8 千円です。

【経常費用】

(1) 性質別費用の状況

社会保障給付 478 億 4,322 万 1 千円 (31.2%) が最も多く、次いで補助金等が 427 億 586 万 1 千円 (27.8%)、物件費等が 356 億 9,666 万 4 千円 (23.3%) となっています。

【経常収益】

計上額は 182 億 6,749 万 6 千円です。

なお、臨時損失は災害復旧事業費や資産の除売却に伴う損失 2 億 9,016 万 4 千円、臨時利益は資産の売却に伴う利益など 1 億 435 万 4 千円で、純行政コストは 1,353 億 2,667 万 8 千円です。

## **3 連結純資産変動計算書**

本年度末純資産残高の総額は 2,706 億 2,422 万 4 千円です。

純行政コストには、税金等と国県等補助金を充当します。純行政コストは 1,353 億

2,667万8千円、充当する財源は税込等790億5,130万円、国県等補助金570億8,752万3千円、合わせて1,361億3,882万2千円なので、差引き8億1,214万5千円の余剰が生じています。